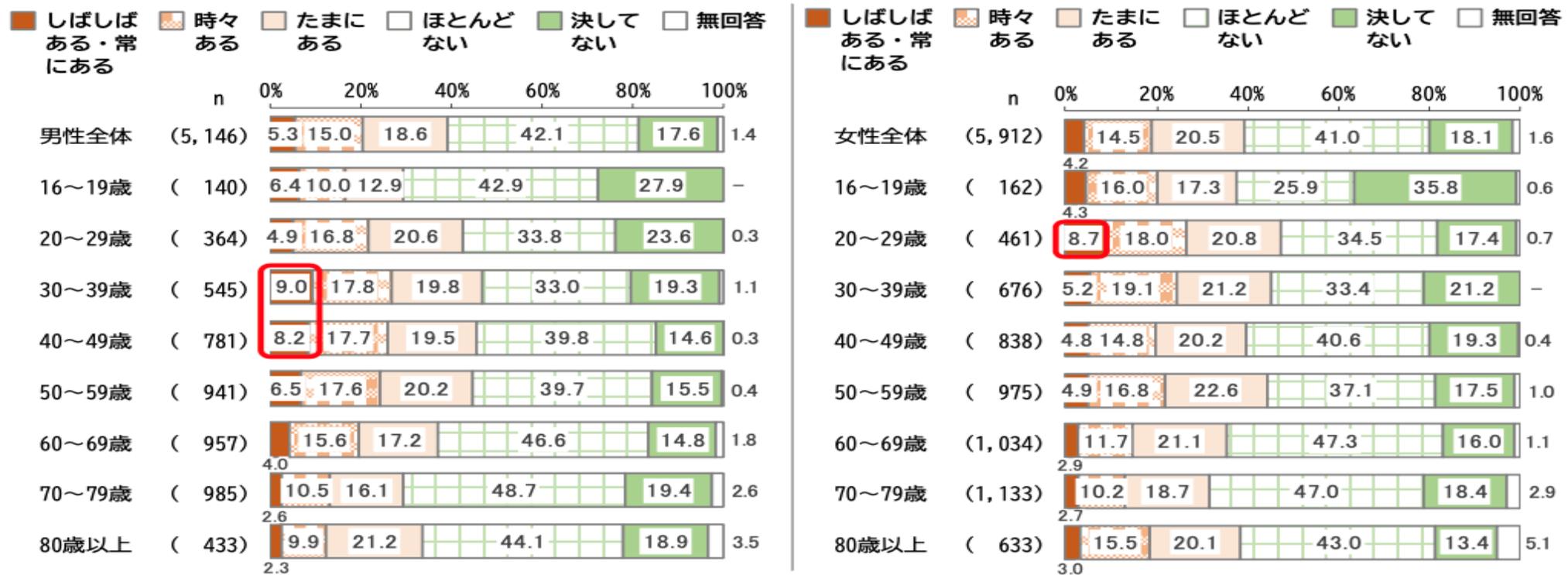


孤独・孤立と 男性性

伊藤公雄（京都大学・大阪大学
名誉教授）

女性は20代 男性は3・40代が孤独

【図4】男女・年齢階級別孤独感



会話なしの独居高齢男性

厚労省調査

高齡单身男性、会話少なく

「2週に1回以下」16%

1回以下」が65歳以上の一人暮らしの男性で16・7%以上することが24日、分かった。同様の女性では3・9%にすぎるとまわっており、高齡单身男性の社会的な孤立が深刻化している現状が浮き彫りになった。

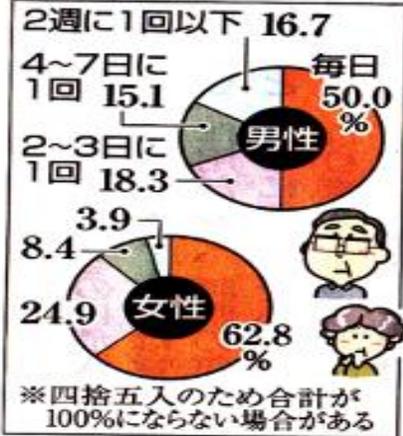
厚労省の国民生活基礎調査によると、12年の一人暮らしの高齡者数(推計、福島県除く)は男性137万、女性349万8千。

看病や介護、子どもの世話で頼れる人の有無について、年齢性別、世帯人数に係らずに分析。「頼れる人がいない」と回答したのは「会話が2週間に1回以下」の人で26・7%だったのに対し、毎日ある人は3・5%にとどまった。

調査は国立社会保障・人口問題研究所が2012年7月に実施した「生活と支え合いに関する調査」。全国の2万6260人に調査票を配布し、有効回収率は80・6%。ただし東日本大震災の影響で福島県では実施していない。

厚生労働省の研究所の調査で普段の会話の頻度を聞いたところ、最も少ない「2週間に1回以下」の割合は16・7%。男性は50・0%、女性は62・8%。2週間に1回18・3%、4～7日に1回15・1%、2週間に1回以下16・7%。女性では24・9%、8・4%、3・9%。男性は50・0%、18・3%、15・1%、16・7%。

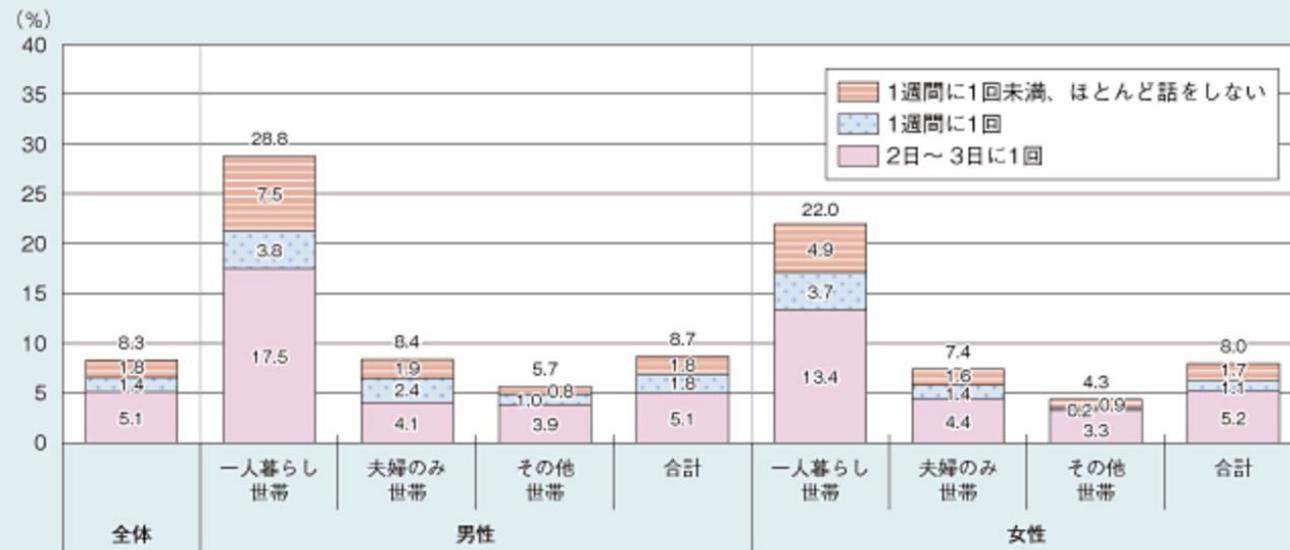
65歳以上の单身者の会話頻度



一方、現在の生活水準を5年前と比べて「かなり悪くなった」と答えたのは男性9・3%、女性8・6%、「悪くなった」は男性30・5%、女性29・1%に上った。

会話少ない独居高齢男性

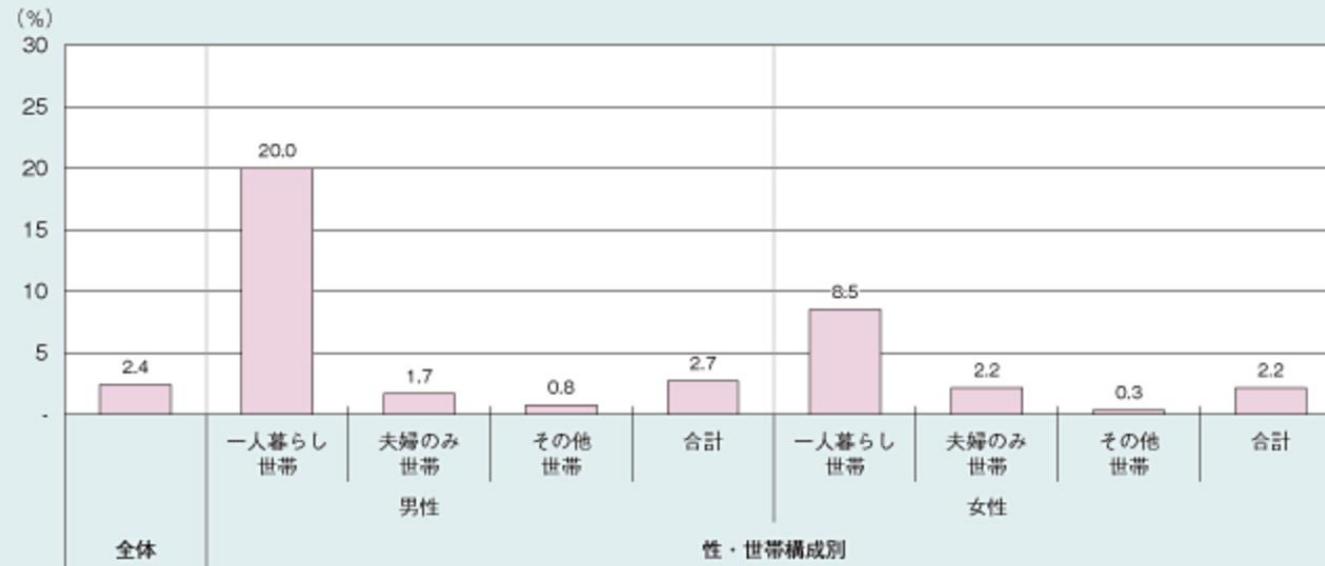
図1-2-6-14 会話の頻度（電話やEメールを含む）



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）
（注1）対象は、全国60歳以上の男女
（注2）上記以外の回答は「毎日」または「わからない」

頼れる人がいない独居高齢男性

図1-2-6-16 困ったときに頼れる人がいない人の割合



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）
（注）対象は、全国60歳以上の男女

コミュニケーションの男女差

もちろん個人差は大きいが・・・

一般に 社会的分業などを通じて

男性のコミュニケーション レポート型（要件・結論型）

女性のコミュニケーション ラポール型（関係性・共感型）

という傾向が形成されやすいといわれる

男性性というジェンダーの呪縛

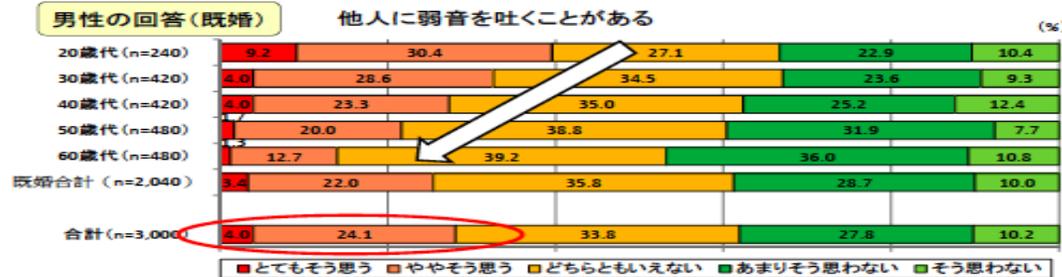
弱みを見せてはならない、感情を表に出してはならない、
悩んでも自分一人で解決しなければならない

← 仕事中心の生活の中で、他者との共感能力や気のおけない（要件がない場合の）コミュニケーションの力を削ぎ落としてきた男性たち

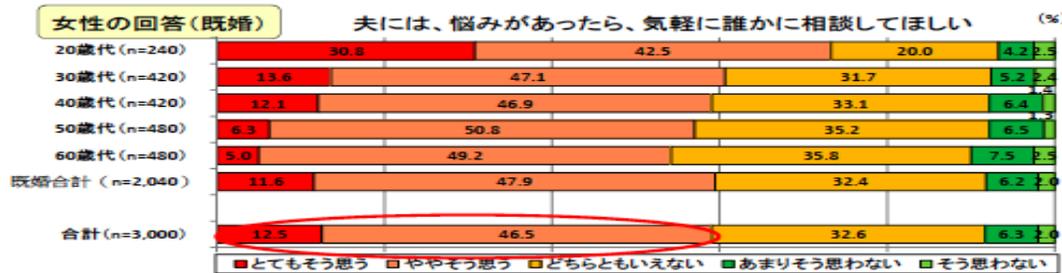
弱音が吐けない男性たち

(4) 男性は、悩みを抱え込む傾向に

- 「他人に弱音を吐くことがあると回答した既婚男性は全体の3割弱にとどまる。
- 年代が高くなると、肯定する(弱音を吐くと回答する)者が減少する。
- 一方、「夫には悩みがあったら、気軽に誰かに相談してほしい」と回答した既婚女性は全体の6割弱



「そう思う」、「とてもそう思う」の合計が3割弱



「そう思う」、「とてもそう思う」の合計が6割弱

男性にとっての男女共同参画に関する意識調査(2012年 内閣府)

男性対象の公的相談

男らしさの呪縛によって悩みがあっても相談できない、困難があっても助けが求められない男性たち

呪縛を解くための1つの方法

男性対象の公的相談の仕組み

↳ 「相談できる場所」というだけでなく、

「男も相談してもいいんだ」という気持ちを醸成も重要

第三次男女共同参画基本計画

第3次男女共同参画基本計画（2010）

「男性・子ども」分野の設定

男性相談の施策化の動き 相談マニュアル作成（2014年）

地方自治体での公的男性相談の展開

2020年段階で80自治体（多くは都道府県・政令市）

男性危機センター

1986年

スウェーデン・ヨーテボリ市が男性危機センターを設置

女性の社会参画の拡大 離婚の危機や男性性の危機を予想

男性対象の相談機関として 一時保護も

現在では全国30ヶ所、DV加害者プログラムなども実施

男性危機センター概要



孤立しがちな男性への視線

世界中で男性による無差別凶悪事件が続発

背景にあるToxic Masculinity (自他に有害な男らしさへの過剰なこだわり)

広がる男性の「剥奪感情」剥奪感の男性化 (伊藤2018など)

剥奪感を (自他への) 「暴力」 (力の証明) で「回復」狙う

孤独・孤立問題含めて男性というジェンダー視線の政策を

男性相談・男性対応の困難さ

孤独・孤立問題も含んだ 男性相談・男性対応の困難さ

問題の背景にしばしば「男性性へのこだわり」が

そのまま受け止めれば、固定的なジェンダー意識の補強にな

りかねない場合も

男性性というジェンダーに敏感な視点を持った対応の必要性

「ゆるやかなつながり」の場

孤独・孤立対策のキーワード

「ゆるやかなつながり」を築けるような場づくり

「要件のみのコミュニケーション」傾向の強い男性たち

↳ 極めて重要な視点

介入しすぎず、適正距離を持った相互の自立と助け合いの仕組み

今後の男性たちのウェルビーイングにも必須